

—素朴と絢爛の意匠美— 古伊万里名品抄

伊万里焼は佐賀県有田町周辺で焼かれた磁器で、製品の多くが隣接する伊万里から出荷されたため、伊万里焼の名称で呼ばれるようになりました。江戸時代初頭（17世紀初）、創始期のいわゆる初期伊万里は、朝鮮・中国製品の影響を受けた染付が主体でしたが、江戸時代前期（17世紀中葉）古伊万里と呼ばれる時期になると色絵が創始されるとともに、オランダ東インド会社を通じて海外にも盛んに輸出され、江戸時代の陶磁市場を席卷するに至りました。

当企画展では、質朴な初期伊万里から古九谷様式、精緻な柿右衛門様式や鍋島様式、海を渡った輸出伊万里、絢爛豪華な古伊万里様式、そして後期伊万里に至るまで、約200点に及ぶ資料を一堂に展示し、現在においても多くの人々を魅了して已まない古伊万里の名品の数々を紹介いたします。



染付楼閣山水文耳付水指



染付月見布袋文皿



辰砂鳳凰文皿



染付漢詩文柑口花生



青磁染付調字文皿



兩香齋銘染付網目文碗



染付福寿文鎚天目碗



染付花唐草文瓶



銹釉瑠璃世文捲口



白磁鑄猪口

初期伊万里

17世紀初頭、肥前有田郷（佐賀県有田町）で磁器の原料である陶石が発見され、日本で最初の磁器が生産されます。肥前磁器は、文禄・慶長の役（1592～1598）の際に連れ帰られた朝鮮の陶工たちの技術を基層に、中国的な文様や技法が組み合わさって成立したと考えられています。

17世紀中葉頃までのいわゆる初期伊万里は、中国製品を模した素朴で自由闊達に描かれた染付（呉須と呼ばれる青い顔料で絵付したもの）が主体で、吹墨や点描技法なども盛んに用いられました。そのほか陽刻文や鎚状にヘラ彫りを施した白磁や瑠璃釉、やや遅れて青磁あるいは鉄釉（銹釉）や辰砂（銅で絵付したもの）などもみられます。

平成13年7月28日（土）～9月2日（日）

主催 中里町立博物館

協力 中島和彦・永由頼寿・泉谷健市（敬称略）

古九谷から柿右衛門・鍋島様式

17世紀中葉頃になると、前代に引き続き染付・白磁・青磁・鉄釉（天目釉・錆釉・黄釉）・瑠璃釉の各製品が生産されるとともに、2種以上の掛け分けも行われるようになります。

深みのある藍色で描かれた写実的な染付や、赤・緑・黄色などで彩色した五彩、乳白色の素地に繊細な筆致で描かれた赤絵（色絵）など、いわゆる古九谷様式や柿右衛門様式と呼ばれる一群の焼造が開始されます。また、格調の高い独特の様式を備えた鍋島藩窯の製品もこの頃最盛期を迎えます。

皿・碗などの口縁部に鉄錆を塗ったいわゆる口紅装飾や墨弾き技法、糸切細工もこの時期に盛行しました。



初期赤絵油壺



色絵見返美人図掬口



色絵花鳥文掬口



胎陶色絵陽刻鶴形皿



染付陽刻魚形大皿



色絵菊椿菖蒲文輪鑿透鉢



染付鮎文皿



色絵剣先文掬口



白磁掬口



染付牡丹文八角大瓶



染付芙蓉手
VOC鳳凰文大皿



金彩紋章花唐草文輪花皿



染付山水文水瓶[ケンディ]



染付牡丹文瓶[ガリボット]



色絵椿鳥文瓶[ガリボット]

輸出伊万里

17世紀後半、肥前磁器は著しい技術革新を遂げ、明末から清初にかけて政情不安と経済変動により輸出が激減していた中国製品に取って代わり、海外輸出の時代を迎えます。

染付の上に赤絵や金銀彩で器面を装飾した染錦手や金襴手様式、薬壺として利用されたガリボットやヨーロッパの貴族の紋章入りの製品、あるいはオランダ東インド会社の略称である VOC マーク入りの芙蓉手染付などが、同社を通じて大量に輸出されました。

これらの磁器は、東南アジアを経て、遠くイスラム世界やヨーロッパの王侯貴族の宮殿を飾り、海外の磁器産業にも大きな影響を与えました。

古伊万里様式の完成

海外輸出が全盛を迎える17世紀後半～18世紀前半、国内では大名や豪商などの階級で磁器需要が高まり、円形・八角形の鉢類に五艘船や琴高仙人・荒磯文様等が描かれた献上手のいわゆる型物などが生産されました。

これら装飾性に富んだ製品は、明朝の古赤絵金欄手や万暦赤絵などを基調とした絢爛豪華な意匠美を誇っていました。染付では、割文様や見込みの五弁花文や松竹梅文・唐草文などの連続文様が流行し、またコンヤク印判や型紙摺りなども盛行しました。



染付紅葉文猪口



色絵花果人物文鉢



色絵赤玉瓔珞文猪口



色絵牡丹唐花文鉢



染付酢猪口



染付猪口



色絵菊花文大皿

染付大小曆



色絵南蛮人船文蓋物

後期伊万里

18世紀後半以降は、商人を中心とした町衆階級にまで幅広く磁器需要が高まり、揃物の皿やいわゆるくらわんか碗、小鉢・蕎麦猪口、あるいは梅文・松文・笹文の染付油壺・酒器類、赤絵の草花文油壺などの実用品が量産され、整備された海路交通や陸路交通に乗って全国的に移出されました。

図案も中国的様式を離れ、当時の浮世絵・風俗絵・花鳥図・版画・人形、染抜き・線描きなど多様な趣向の意匠や絵模様が描かれるようになりました。